

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200350		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松天竜 第1・第2 ユニット合同		
所在地	静岡県浜松市天竜区山東4360-1		
自己評価作成日	平成25年8月29日	評価結果市町村受理日	平成25年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigvoCd=2297200350-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム開設より、2年が経過しようとしていますが、地域の皆様からの認知度や信頼は大きなものとなっております。畑作業においては、自治会の方や近隣の方が耕運機にて耕してくださったり、種や苗をくださったり、水遣りをお手伝いいただいたり、地域活動の中心になっております。近隣への買い物、散歩、お祭りへの参加時などには、「あそこのホームだよね」など声をかけていただき、親切な対応をしていただいております。入居の問い合わせにおいても紹介者様より、評判がいいとの有り難いお言葉をいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山が襟のように囲み、河が帯のように流れる北遠の地に事業所はあります。昔、林業で栄えたこの街は、人柄の好い“人”の繋がりが強く、昨年から始めた畑作業も近隣住民の協力支援が続いています。また、馴染の関係となった“信頼”からロコミの入居希望も多く、職員の動機づけにもつながっています。常に利用者の喜び、楽しみを考えている職員たちの発案により、草木を楽しめるようにと庭を活用した新たな散歩コースの計画もあり、また介護福祉士が本年だけでも3名誕生していることから、職員意欲の高さが覗えます。ほかに地域住民が集う、「おしゃべり茶屋」への参加を楽しみにしている入所者も居るなど、一人ひとりの思いに馳せたきめ細やかな支援が垣間見れました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時の運営理念の唱和は継続実行されており職員に浸透している。また、会議において、実例を話し合い、理念への合致を確認している	理念の意味を考え実例と合わせて発表する機会も会議などで設けられ、理念の1つである「その人らしい生活」は、職員が利用者の意向を真に汲み取れるようになってきたと管理者は感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会などに声をかけていただき、地域の防災訓練、お祭り、催しなどへ積極的に参加しており、ホームの訓練などへの地域の方の参加	本年から地域の行事にも誘いを受け、お祭りにはご近所が自宅の庭先を解放し招待席を設けてくれました。見学訪問では、婦人会10名、老人会15名、おしゃべり茶屋10名と顔ぶれも多彩に交流が深まりました。	授業の一環として中学生のボランティア訪問も予定されているとのこと、引き続き小・中学校への働きかけを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会や婦人会の方の見学に応じグループホームの役割や、認知症の方に対する理解を深めていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の行事などを紹介いただき、参加させて頂き、次の運営推進会議にて反省点を話し合い、次に繋げている	隔月開催される運営推進会議では意見交換しやすい関係が築け、状況報告の他にも願いを伝えることが多くなっています。そのため、畑作業への参加や行事での椅子の補充対応など協力を得られています。	家族代表の参加が数ヶ月に1回と少ないため、参加して頂ける呼びかけを工夫をし、毎回の参加実現を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類のやり取りも、役所が近いこともあり、訪問したり、されたりし、直接話しを出来る状況を作っている	市担当者は毎回運営推進会議に参加して下り、顔なじみとなっているため、職員自ら直接用向きに訪れることもあります。事業所も定期的に訪問し、FAXで済む用事も直接担当者と対話することで良好な関係構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議上にて法律を含めた身体拘束の知識の習得と実践現場にての事例や対処法を共有している。	玄関施錠はしておらず、出掛けようとする場合にも直ぐ声掛けはせず様子を見ながら見守り、外出時には職員がごく自然に寄り添っています。朝・夕礼ではヒヤリハットも申送り徹底していて、スピーチロックについては職員の意識の高さから、管理者はほぼ無いと感じています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に会議内にて研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議無い研修にてスタッフ間には周知をしている。関係各所との連携にまでは至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は読み合わせを行い、疑問や質問は納得のいくまで説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画更新時に説明を行い要望をお聞きするほか、直接言いづらいことはアンケート調査にて要望をいただいている	面談時にはハイタルネツク表を基に体調を説明するなど、家族の安心への配慮がみられます。定期清掃に加え、全体チェックを毎朝繰り返すことで衛生美化の向上につながったケースは、家族アンケートで挙げた意見を活かしたものです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議において意見を出していただく他、面接やアンケートにて個人的意見をいただいている	職員同士の交流が盛んで、食事会やカフオケなどを通じて懇親を深めているため意見しやすい環境にあり、会議においても活発な意見交換が出来ます。また、より良い事業所作りの提案を、2名ずつ交代で発表をする機会も設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の昇給時に査定を行う他、個人面談にて要望、意見を得ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実力に合わせて、本人の希望の上、研修に参加を頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北遠の介護事業者による会合に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに基づき、初期はご本人様の常に近くにスタッフがいらっしゃる様にし、生活の安定が見られるまでは寄り添う		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約(入居)に至るまでに、直接又は間接的に重要箇所の説明を行い、納得の上で契約を結ぶようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会社内の他施設の利用など状況の応じた最善のサービスを目指している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域密着型共同生活介護の法的位置の理解をすすめ、社会におけるグループホームの役割と期待をスタッフが認識している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状態やご希望は随時報告し、ご家族様のご意見を加味した上でサービスの提供を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院は基本的には入居前の主治医の所とし、床屋、美容院もご本人の行きつけの場所としている。また、昔から馴染まれている地域のお祭りには参加をしている	馴染みの理・美容院には職員の送迎で継続が叶っています。また、地元の祭りを楽しむことや趣味の踊りやカラオケを続けてもらおうと、個別に職員が付き添う取組もあります。畑作業の好きな人には毎日1時間ほど充実した時間を過ごしてもらっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットにこだわることなく、行き来をさせていただいており、仲のいい方同士でのお買い物や行事参加をさせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等の空室状況のご案内やお見舞いに伺い相談を受けるなどしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用に加え、要望や様子を書き込むシートを使い継続的にご本人様を知ること努めている	自宅へ訪問してケアプランの更新をおこなうことで、本人の生活様式や環境など新しい情報を得られ、また家族の意外な意向を得る機会となっています。また、日々の会話から要望を把握し、自主的に提案をしてくる職員を管理者は頼もしく感じています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報収集は勿論、担当ケアマネ、担当職員からも情報を頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表を活用し日々の変化に気を配っている。また、状態は朝夕の申し送りをを行い、スタッフ間の周知を図っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフ作成による、気づきシートを活用し、サービス担当者会議にて家族の意向とともにケアプランへ集約している	業務上の担当はありますが、計画は職員全員で立て、ケアマネージャーが収束しています。3ヶ月に1度作り直す折にはその都度自宅に訪問しており、家族の意見が出やすく思いや希望に即したプランとなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報や介護記録から、現在の状態を気づきシートに拾い上げ、ユニット会議において共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望や状態の変化に伴った対応は個別に随時対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元からの入居者様が多数である為、ご本人様の要望は比較的明確であり、個々対応が出来る		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医との連携を図り、急病や様態変化のあった場合には、迅速な相談や往診を行っている	向かいに協力医があり定期受診時は常勤看護師が同行し、24時間態勢で電話受付対応のため安心です。半数は在宅の頃からのかかりつけ医を利用しており、受診の際には職員1人が付き添います。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤であり、継続して個人の健康管理を行っており、小さな変化にも素早く対応出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と主治医、当ホームの流れが確立されてきているので入退院がスムーズに行えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、指針を説明し了承を得ております。 また、実際にその状況が起きた場合には家族と相談の上、最善の対応を模索している	重篤状態となり透析に通院した例がありますが、看取りの実績はありません。重度化した場合、協力医に都度相談し、家族の意向を汲み取りながら対応しています。今後の取組を検討しつつ、会議にて看取りの研修や話し合いを重ねています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急隊員による救護訓練を行い、スタッフの基礎知識をつけている。また、社内各マニュアルを使い研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に入居者様と参加をさせていただき、避難場所の確認や協力体制の確認を行っている	避難訓練は夜間・昼間想定の2回行い、消防者の協力も毎回得ています。運営推進会議でも度々議題にあがっていますが、地域住民の参加がまだ無いため呼び掛けを続けて行く予定です。冷食や常の食材を多めに置き、有事の地域住民受入への備えもあります。	地域の訓練には参加できていますが、事業所訓練に地域住民参加が叶っていないため、働きかけを続けることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録などは適正に管理を行っており、スタッフにも扱いの徹底を行っている。また、入浴などは同姓介助に努めている	入浴時、恥ずかしがる場合には浴室の外で見守りし、また普通の生活をとの視点から、入浴セットや下着などの持ち物には名前を書いていません。本年から法人内の管理者で接遇会議をおこなっていて、施設外研修にも積極的に参加する考えです。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮なく、思いが伝えられるような人間関係が構築できるように、個人的な買い物などにも対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事、入浴、食事に至るまでご本人の希望を優先し、その日の行動を制限することはない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の選択などもお店にてご本人に選んでいただいている。洋服選びも同様に、出来る限りご本人に選択していただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた野菜の仕分けや根取りの段階から皆さんで行い、準備か片付けを協力して行い、役割と遣り甲斐を得ている	具をカットするなど包丁も使い、利用者も食事作りに参画しています。また、週1回の手作りおやつや誕生日ケーキにも担当を取り合うほど賑わっています。女子会と称し喫茶店へ出かけたリ、晩酌を嗜む男性達は夕食後男子会を行うなど、食を通じた楽しみがあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養は献立に従い摂れている。食事の形態や水分の量種類はご本人様の状態に合わせて変化をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ホーム内にて歯磨き、義歯の洗浄は毎日行っているが、訪問歯科により、高度な口腔ケアが行われている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の負担にならないことを考慮した上でパットの使用、大きさや形状などを検討をしている。定期的な声をかけることにより失敗を減らしご本人様の負担の軽減に努めている	夜間は睡眠を優先したポータブルトイレの利用者も多くいます。また、夜間オムツからトイレで出来るようになった例もあります。職員は日中のパットの形状を変えるなどして使用量を減らし家族の経済負担を減らす努力を続けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を一番の重要項目とし、ラジオ体操、ケアビクスなどを行っている。また、運動の困難な方には牛乳やバナナの提供を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は極力ご本人の意思に従っている。定期的な入浴スケジュールはあるが当日のご本人の意思を確認し尊重している	大半は3日に1回ですが、毎日のように入浴する人もいます。お湯は一人毎に張り替えし、足ふきマットも入浴剤もその都度替えています。これまで通りの暮らしや希望を尊重し、入居間もない人には夜間に入浴してもらうなどの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中であっても居室にて自由に休息を取っていただいている。夜間は夜勤スタッフがしっかり見守り、トイレに不安のある方にはポータブルトイレの設置を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認の表を薬品庫に貼り、変更は随時書き込み、服薬時に用法や用量を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で使用するランチョンマットの作成をしていただいたり、鍋敷きを編んでいただいたりしている。晩酌を楽しむ方、喫煙を楽しむ方もいらっしゃる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公共施設や道の駅などへ頻繁にでかけアイスクリームを食べたりしている。誕生日には仲のいい入居者様同士で回転寿司に出かけたりしている	外出好きな人も多いため、近くの牧場・ペットショップ・乗馬クラブ・美術館や近所のスーパーなど、毎日のように外出しています。本年のお花見は全員で、調理人だった職員が作った色鮮やかな花見弁当持参で、万葉の森公園まで行ってきました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご希望により自分の財布にて小額のお小遣いを持っておられ買い物を楽しまれる方も数人いらっしゃる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所やフロアの電話の使用は自由で、ダイヤル等の操作が分からない方にはスタッフがダイヤルするなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力施設のような雰囲気はなくし、生活感や家族的雰囲気が出せるように努めている	毎朝掃除をおこない、ソリューションウォーターで感染予防を徹底し、冬は空気清浄機を使っています。壁にはきれいな塗り絵の作品が飾られ、窓の外にはプランターが置かれ、季節の移ろいを楽しむ工夫があります。また、夏には野菜を育て楽しむ取組もみられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ベンチや裏庭のベンチにて天気のいい日にはお茶を飲んだりして過ごしています。ホームの周囲をお一人で散歩される方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より基本的にはご自身の使っていた物を持ってきていただいています。順次必要な物もご家族にお願いして持ってきていただいています	オセロ・碁盤・将棋・本・編み物・裁縫道具など趣味や馴染みのものが持ち込まれ、自室でお化粧を毎日する人もいます。週1回の天日干しのほか、布団乾燥機も使用し、除菌・湿気・寒さ対策をおこない、快適さに対する職員の思いが見受けられました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレには分かりやすい表記の札や張り紙をしています。居室に於いてもタンスに入っている物の表記をしている方もいます		